

富山の旅

塚田 實

四月初め法事のため富山を訪れ、久し振りに旅を楽しんだ。先ず「日本さくら名所百選」に選ばれた松川公園で遊覧船に乗った。富山城址公園の脇を流れる松川は、かつて蛇行していた神通川名残の川で、堤兩岸の桜は快晴の青空を背景に、満開に咲き誇っていた。

翌日は、高岡にある国宝「瑞龍寺」を訪れる。富山から高岡までは「あいの風とやま鉄道」に乗った。この路線は元JR北陸本線だったが、新幹線建設時JRから分離され、第三セクターとして運営されている。高岡で南口（瑞龍寺口）に出ると、駅前にはタクシーもバスもない。十分ほど待って、ようやくタクシーが来た。

瑞龍寺は、加賀三代藩主前田利常が義兄利長から藩主の座を譲られたことに恩を感じて、菩提を弔うため建立したもので、曹洞宗の堂々とした伽藍だった。

さて、高岡駅に戻ろうとすると、タクシーはいないし、バス道も遠い。寺務所の人に聞いた。「確かここからシャトルバスがあると観光案内に書いてありましたが?」。「コロナになってから、観光客が来なくなったので、シャトルバスは運行停止になりました。その電話機でタクシー会社に電話をして、呼んでください」。電話をするとは十分ほどでタクシーが来た。嬉しいことに迎車料金は百円だ。

高岡駅は立派な駅舎だったので、昼食を摂ろうと地下街を探しても、店はほとんど閉まっていた。

富山市は路面電車を活用したコンパクトシティ戦略を展開し、都市再開発の優等生と言われている。しかし県全体の活性化は未だしと思える。富山市の郊外で見つけた某参議院議員の「地方から日本を立て直す」のスローガンもむなしく響く。地方創生は二〇一四年から国策の一つとして展開されてきたが、どれだけ成果が上がったのだろうか。また、コロナが終息して人の流れが戻らないと地方は更に苦しい。

四月一日から富山湾の宝石と言われる白エビが解禁になり、滞在中魚と白エビを満喫した。地方が早く元気になって欲しい。